

【表の見方】

- ① 耐震診断の結果を確認する建築物の用途を含む【耐震診断結果一覧表】を探します。
- ② 【耐震診断結果一覧表】の名称、位置及び建築物の主たる用途から 耐震診断の結果を確認する建築物を探します。
- ③ 耐震診断の結果を確認する建築物の「耐震診断の方法の名称」欄に記載されている番号と同一の番号を【附表】から探します。
- ④ 耐震診断の結果を確認する建築物の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄に記載されている値が、【附表】の「Ⅰ」、「Ⅱ」、「Ⅲ」のどの区分に該当するのかが確認します。
なお、【附表】の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」欄に記載されている値については、同表下部の注意書き(※)に基づき算出します。
- ⑤ 「Ⅰ」、「Ⅱ」、「Ⅲ」の区分に応じ、耐震診断の結果を確認する建築物の大規模の地震に対する安全性を確認します。
- ⑥ 【附表】下部の注意書き(※)に基づき記載しています。

【耐震診断結果一覧表】

①

■小学校、中学校、中等教育学校の前期過程若しくは特別支援学校

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	〇〇小学校	羽曳野市〇〇1-1-1	小学校	1 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.60 \quad q=1.3$	-	-	
2	△△中学校	羽曳野市△△2-2-2	中学校	2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=1.01 \quad C_{T,U} \cdot S_D=0.35$	-	-	Iso=0.7

【附表】耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

No	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
1	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
2	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T,U} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	-	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T,U} \cdot S_D$

- I. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

(※)Isoについては、備考欄に特記がない限り、0.6とする。

(※)Z、G、Uについては、備考欄に特記がない限り、1.0とする。